

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府・京都市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ, V 】
2 実施対象者	京都市立四条中学校 第1学年 94名（男子58名, 女子36名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（人権学習・道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・様々な立場で生きる人との出会いの中で、良さや違いをありのまま受け入れることができる。どんな社会が皆にとって暮らしやすいのか一人一人がいきいきと生きていく為に必要なことは何かを考え、具体的に行動にうつす姿勢を養う。 ・車椅子バスケットボール選手の講演・実技や生徒の競技体験を通じて、パラリンピック競技への理解を深める。
5 取組内容	1 事前学習 ○パラリンピック競技について知る 競技説明プリント ○障がいのある人たちの生活上の不便さを知る 映像資料「バリバラ トイレ・排せつの悩み」 「げんばるマン 車いすから見える世界」(Eテレ) アイマスク体験 ペアの1人がアイマスク装着、もう1人が校内を歩行誘導介助 ○車椅子利用者への見守る姿勢と適切な介助を知る 読み物資料「車いすの少年」(『学校・学級講話資料 12 か月』) 2 講演と車椅子バスケットボール競技体験 講師：坂野 晴男氏 (シドニー・北京パラリンピック 車椅子バスケットボールチームコーチ) 山本 英嗣氏、東 武志氏 (KYOTO UPS 選手) ○選手のプレイを見た後、車椅子操作やルール説明を聞く ○クラス対抗車椅子リレー 競技用車椅子で全員が前進・後進の体験 ○クラス対抗車椅子バスケ試合 山本選手・東選手と代表生徒5人ずつが対戦 ○講演会で、パラリンピックでの試合の様子や選手の半生など聞く ・出場選手は各自の障がいの状態による持ち点で、選手の持ち点合計が14点になるよう調整。つまり障がいのある人だけのバスケではなく、健常者も参加できる「車椅子を使ったバスケ」という概念に意識を変えるべき。

	<ul style="list-style-type: none"> ・事故により障がいを負った選手の苦勞、引きこもり人との接触を避けていたが競技との出会いで考え方を変えた経緯 →前向きな気持ちで生きることの大切さ ・車椅子利用者の生活上の困難と、海外との支援の違い <p>3 事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パラリンピック競技に用いる用具を知る 国際パラリンピック委員会公認教材 <i>I'm POSSIBLE</i> ○ユニバーサルバスケットボールなどについて知る 車椅子利用者・聴覚障がい者・健常者の混合チームの公開トライアルや陸上投てき競技練習会の京都新聞記事（平成29年12月17日付） ○前時までのふりかえりと、校内や街のバリアフリーを考える 点字ブロック、公共施設の点字表示、音響式信号機などの「ワーホ」イット
6 主な成果	<p>事前・事後アンケートから、生徒の意識の変容がうかがえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック競技への関心高まる 8割強の生徒が「東京オリ・パラの競技をテレビで、また実際に観戦したい」と回答。車椅子バスケット以外にも、部活動で競技しているもののパラ競技を中心に関心を寄せている様子。 車椅子バレー・5人制サッカー・ツェッティングバレー・陸上・水泳など ・障がいのある人への知識理解が深まる 車椅子や白杖利用者の介助経験者は1割未満だったが、学習後は「今度まちで障がいのある人が段差などで困っていたら、ぜひ手伝おうと思う」などと感想を書いた者が多かった。 <p>学習後、家族や知人に学習内容を話した者は5割強。関心の高さがうかがえる。</p> <p><生徒感想文より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・足が不自由になったのをマイナスに考えるのではなく、プラスに変えていけるところがすごいと感じた。何か嫌なことがあっても、見習って頑張りたい。 ・パラリンピックで使われている物の「サイズ」で競技用義足など、知らない物がいっぱいあった。2020年はオリンピックだけではなくパラリンピックも見たい。 ・人それぞれ障がいの重さは違うけど、自分とまず向きあっているのはすごいと思ったし、2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されてパラリンピックに出場する障がいのある人たちが日本に来るので、僕はそんな人たちの手助けになれるように頑張っていきたい。 ・私は障がいのある人も健常者も共にいきいきと生きる世の中になってほしいと思った。アイマスク体験や車いす体験をしてみてもとても難しかった。東選手や山本選手はすごいと思った。パラリンピックがテレビでもっと放送されるようになってほしい。ユニバーサルバスケがもっと広がってほしいと思った。 <div data-bbox="437 1509 890 1816"> </div> <div data-bbox="916 1565 1329 1816"> </div>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	生徒の理解を促す為、視聴覚教材利用など
8 主な課題等	小中連携で情報交換、小学校での指導内容を踏まえ人権教育の計画
9 来年度以降の実施予定	同様の内容を計画するか未定であるが、今後も続けてオリンピック・パラリンピックへの知識理解を深めるよう、促していきたい。